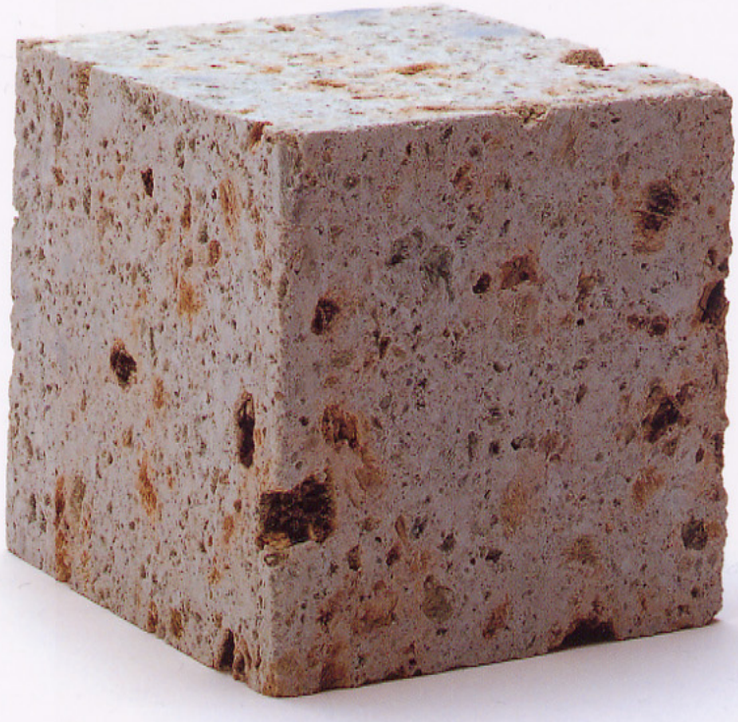
住まいに役立つ
石の機能を再検証

Interior Magazine インテリアマガジン[コンフォルト]
CONFORT

平成9年12月5日第三種郵便物認可 2004年3月1日発行（毎月1回1日発行）
2004 No.74 March
3

特集 はたらく石

数種の石が静かに調和する家 田井勝馬
産地・大谷の採掘場にダイブする
石屋根巡礼 徳井正樹
大谷石の壁が構造と機能を補う住まい すわ製作所
光と風を通す石の建築 那須芦野・石の美術館 隈研吾
テラゾーの現場
石材製品カタログ 天然石・フェイクストーン
岩塊《ライムストーン》から町が生える イタリア・マテーラ



保存版
石の機能と表情を知る
建築石材図鑑

犬と一緒にくつろげるピッツェリアがオープン

「ピッツェリアfumo」（東京・駒沢公園）

取材・文 佃 祥子（編集部・144ページ）



❶❷駒沢公園西口すぐ目の前の建物2階にあり、散歩帰りに立ち寄れる。イタリア産モッツァレラチーズや国産フルーツトマトをたっぷり使ったシチリア風ピザをはじめ、前菜やデザート、幅広いセレクトのワインも揃えている。ペット栄養管理士のアドバイスのもとにつくられた犬専用のオーガニックメニューやサプリメントも豊富。

この冬、東京・駒沢公園の四季豊かな自然を見ながら、犬と一緒にくつろげるという「ピッツェリアfumo」が誕生した。"野点"とか英国紳士が狩猟の時に催す"高級ピクニック"がイメージ」とこの内装を手がけたデザイナーの酒井俊彦氏は語る。なるほど、ニュアンスある木の建具や、クリアなアクリル製のテーブルなど、オリジナルの家具を印象的に使ったインテリアは、窓の外の自然とも調和している。

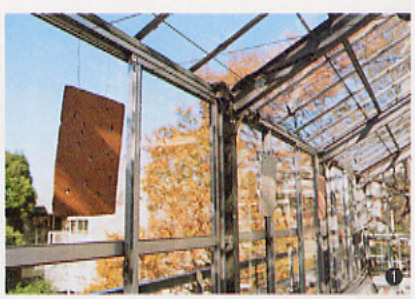
そして「犬を主体に考えたプラン」というこの空間は、犬を連れて入っても落ち着いて食事ができるよう細やかに配慮されている。床面には撥水性があり、犬の足にも優しい陸上競技場用の素材を使用。一角には、飼い主の目が届くよう低く囲ったドッグランコーナーを設けた。ソファ席は、犬と並んで座ることができるのはもちろん、犬を連れていない人も心地よく過ごせるようにゆったりと席幅をとっている。

そんな快適さが、オープンから約2カ月にして、このあたりに住む人々がすでに常連になっている所以かもしれない。



[ピッツェリアfumo]
東京都世田谷区駒沢
4-12-22・2F
tel.03(3410)2069
営業時間/11：00～25：00(金・土～26：00) 月曜定休





©スナッピン budda 井上佐由紀

さまざまな"アート"を発信するグラスハウス

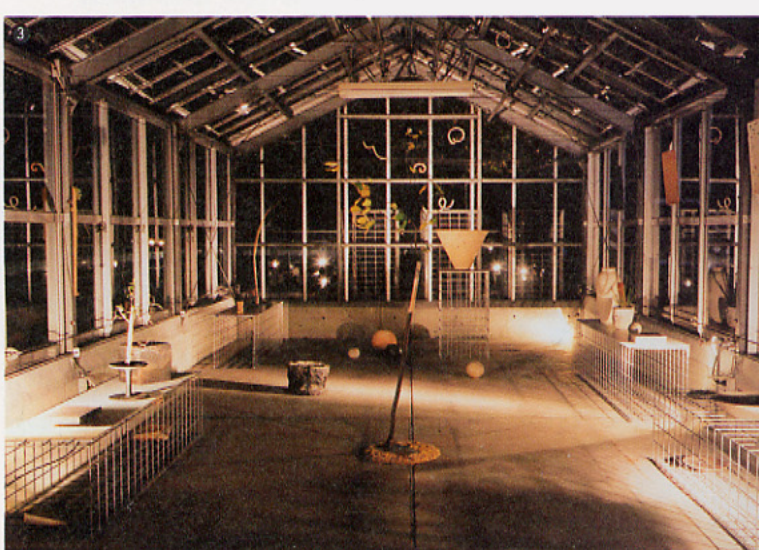
オープンスペース「温室」（東京・代官山）

東京・代官山のヒルサイドテラス（槇文彦設計・1969年）の脇を抜けると、85年に第4期計画として建てられた建築家・元倉真琴氏の設計によるヒルサイドアネックスB棟がある。

見上げると、屋上には50㎡ほどのグラスハウスが空を抜けるようにスコンと建つ。実はここ、もとがハーブ栽培用の温室だけあって、当時から全自動の空調や室温調節などを完備した本格的なグラスハウスだったが、この冬、ギャラリーとして生まれ変わった。

日中は、大きく枝葉を広げたケヤキとムクの爽やかな緑に囲まれ、建物いっぱいに空が見えるのも屋上ならではの利点だ。そして夜には、もう1つの顔を魂かせる。間接照明による光が壁面や天井に艶やかに反射して、昼間は見えにくかった輪郭が夜の陰影に際立ち、どこか舞台装置のよう。時間や季節の移ろいがそのまま空間構成の要素となるこの場所を活かし、今後は、展示会、環境や自然をテーマにしたワークショップ、サウンドインスタレーションや演劇など、作家たちの発信基地となっていく予定だ。

[温室] 東京都渋谷区猿楽町30-2 ヒルサイドアネックスB棟屋上
tel.080(3006)5278
fax.03(3505)5073
hikarionsitu@ybb.ne.jp



❶❷❸全自動の苗床用サーモスタットやエアコンなど大きな設備は取り外し、床面だけ塗装。季節や時間によって表情を変えるその開放的な空間は、撮影場所としても使用可能だ。昨年末、初めての作品展は、作家・植松永次氏によるもの。素朴な質感の丸みをおびた器やオブジェは自然光の中でいきいきと存在し、訪れる人を魅了した。

NEWS SPANKING